



地域生活支援とコミュニティケアに関する研究

保健福祉学部 人間福祉学科
教授 田中 聡子 (たなか さとこ)

博士(社会福祉学) 社会福祉士 (主任) 介護支援専門員
連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 2517号室
Tel 0848-60-1120 (直通: 1193) Fax 0848-60-1134
E-mail satoko-tanaka@pu-hiroshima.ac.jp



専門分野： 地域福祉, 公的扶助, 貧困研究
キーワード： ワークショップ, KJ法, 生活支援, 多職種協働
医療と福祉の連携, 子どもの貧困, 居場所づくり

● 主な取り組み・活動

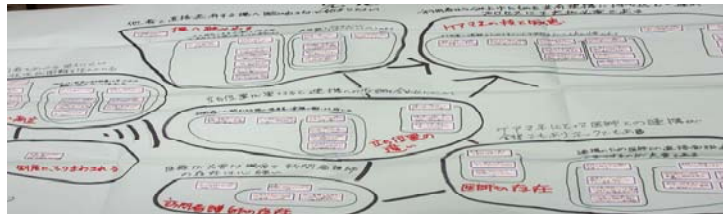
1. 多職種協働・連携を基盤にした地域包括ケアシステムの研究をしています。

「ケア」とは年少, 高齢, 障害などの理由により自立した生活を営めない場合の支援です。保健, 医療及び福祉の専門職が連携, 協力して地域で生活する人に一体的, 体系的に「ケア」を提供する仕組みが地域包括ケアシステムであり, 有効に機能するためには地域住民との協働が重要です。地域福祉の推進, 地域で「支え合う」仕組みづくりの実現に向けた取り組みをしています。

2. 貧困の克服と社会的居場所に関する研究をしています。

福祉の相談機関において「困難事例」とは, 問題が潜在化し, 予防的な支援や早期の対応がなされないままに進行した事例が多いと考えられています。貧困問題が背景にあり, 制度, 施策の利用, 福祉サービスの活用を阻害し, 問題を一層困難にしています。貧困問題の克服には, 所得保障をはじめとする政策アプローチだけでなく, 地域社会での孤立を予防し, 自分が受け入れられ, 尊重される社会的居場所づくりが重要と考えます。生活困難を抱える人を包摂する「場」が大切です。すぐには自立できない人への中間的就労の場や居場所の研究を進めています。

KJ法-多職種協働・連携の研修会-



KJ法を活用した住民参加型のワークショップ, 専門職によるニーズ把握や課題の析出のため効果的なワークショップの方法を提案します。

● 今後の目標・抱負

共生ケアの実現に向けたコミュニティケアの研究-住民ニーズの把握と社会資源の開発, 活用による地域課題と貧困問題の解決を目標にしています。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

①地域ケア会議やケースカンファレンス, ワークショップの効果的な開催や多職種協働のネットワーク形成, 住民互助組織やケアマネージャー等の職能団体, 社会福祉協議会, 行政, ワークショップを活用する企業やNPO. ②貧困対策と生活保護利用者, 生活困窮者の自立支援に関して, 福祉事務所, 民生児童委員, 福祉団体と連携できます。

● これまでの主な連携事例・実績

①地域社会の担い手養成研修②地域包括ケア体制構築事業及び社会資源のマップ作成③医療分野と多職種連携推進研修会④地域福祉活動計画⑤スクールソーシャルワーカーや子どもの貧困対策関係の機関や組織